

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている			
	やや良く なっている	百貨店（営業担当）	単価の動き	・ハンドバッグやコート、ジャケットなどの高額品が徐々に売れ出しており、全体的に客単価が上がってきている。
		百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・冬物衣料を中心に、客単価が上昇している。クールビズ効果により、男性の冬物カジュアルのニーズが高まっている。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・気温の低下に伴い、実需の婦人服を始めとした衣料品が好調に推移した。また物産展等も好調だったことから11月は、来客数、販売額ともに今年最高の伸びを達成した。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・前年比105～106%で推移しており、過去最高の数字を記録している。食料品関係や婦人衣料、身回り品を中心に好調に推移している。ただし、雑貨や婦人衣料のミセスは若干苦戦をしている。来客数の変化はそれほどないが、仕掛け等を変更したところが功を奏した。
		百貨店（業務担当）	販売量の動き	・少しずつではあるが、客単価が上がっている。来客数に大きな変化はないものの、売上は前年を手堅くクリアする動きが続いている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・気温が下がり、生活関連用品の寝具や肌着、子供服、身回り品が好調に推移している。特に毎年低迷していた男性の冬物カジュアルの単価が上がってきており、数も多く出ている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・気温が下がり、冬物の衣料や肌着、暖房用品等の動きが非常に良くなっている。食料品関係も鍋物材料の動きがかなり良くなっている。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・気温が低下し、衣料品の売上が昨年並みに回復しつつある。
		スーパー（企画担当）	単価の動き	・競合店の影響はあるものの、気温が下がり鍋物商材の動きが良くなっている。客単価も上昇しており、売上は前年比103%と好調である。
		衣料品専門店（総務担当）	単価の動き	・売上は、紳士の衣料品が前年同月比26%増と急増している。ヤング婦人服は8%増、呉服も5%増と好調である。またバーゲン商品よりプロパー商品の方がよく売れている。ただ、ミセス婦人服が前年割れをしている。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・デジタル関連商品の売行きが好調である。
		家電量販店（店長）	お客様の様子	・まとめ買いが増えており、特に大口のプライダルや新築一式等が増えている。
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・高額商品の動きが良くなっている。
		家電量販店（企画担当）	お客様の様子	・全体的に来客数が増えている。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（統括）	競争相手の様子	・新規出店計画が多く、特に大手は数箇所の出店を計画している。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・客単価はほとんど変わらないが来客数が伸びている。
		高級レストラン（専務）	お客様の様子	・客単価が上がり、来客数も少し良くなっている。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・売上が前年比プラスに転じている。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・行楽シーズンという要因以外にもランチタイムの来客数が非常に増えてきた。
	タクシー運転手	来客数の動き	・昼間の稼働が良く、以前に比べて飲食店の利用者が増え、夜の稼働も良くなった。	
	通信会社（管理担当）	来客数の動き	・ここ数か月、商談に切れ目がない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
変わらない		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・来客数が、前年より20%ほど良くなっている。特に、韓国からの客が多くなっている。昨年までは韓国の上流階級の客が多かったが、今年是一般の方の来場が目立っている。
		美容室（店長）	来客数の動き	・店の前の道路を行きかう人の姿が多くなり、活気が出てきた。店の中も活気が出てきている。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・月初めにパルーンの世界大会があり、各地から人が大勢来た。中心商店街でもいろいろなサテライトイベントを催しており、売上も上がった。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・同じ商圏内にスーパーが相次いで出店し、そのため商店街には人通りが少なく、空き店舗もなかなか埋まらない。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・全体的には景気は回復基調であるが、先月、今月とやや一服感があり来客数が少ない。	
	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	来客数の動き	・来客数が伸びず、客単価も上がらないので売上が上がらない。	
	百貨店（総務担当）	来客数の動き	・キーテナントが年末へ向けて種々な営業施策を行っているものの、ビル全体の来客数、および客単価は伸び悩んでいる。	
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・恒例の物産催事が好評で、来客数、買上点数ともに好調に推移している。また、全店割引催事もけん引したが、価格に左右されず「欲しい商品は購入するが不要な商品は購入しない」という傾向がより顕著になっている。	
	百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・年々、ギフト商品の受注件数や客単価がダウンしている。	
	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・寒波が来ないため、冬物衣料が思うように売れない。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・暖冬のため、冬物衣料の動きが悪い。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・競争店が多く出店してきており、来客数に影響を受けている。	
	スーパー（店長）	単価の動き	・店舗ごとにはばらつきはあるが、景気の良し悪しに加えて競争の発生、さらに今月は野菜の相場が非常に安くなっており、厳しい数字が出ている。	
	スーパー（店長）	競争相手の様子	・衣料品は3か月前と比べると8%ほど上がってきている。特に婦人服の冬物衣料や肌着、寝具が好調に推移している。しかし食品に関しては相変わらず厳しい状況で推移している。	
	スーパー（総務担当）	販売量の動き	・商品の買上点数の動きにあまり変化がない。	
	コンビニ（経営者）	単価の動き	・客単価が前年比を下回っており、依然として悪い状況が続いている。	
	コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・量販店が前年比2.3%減、コンビニが前年比1.4%減、ローカルスーパーが前年比6.3%増と数字はずっと落ちている状況である。来客数に変化はないが、値下げ商品だけを買っているという状況が多く、買上点数および客単価がなかなか上がらない。	
	衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・9、10月と買物をしなかった客が11月になってようやく秋物、見回り品を買うという動きになってきた。ただし、必要最低限の物のみの購入となっている。	
	衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・例年は冬物衣料が売れる時期であるが、今年は気温が下がってもコートやブルゾンの動きが悪かった。また薄手のニットやジャケット、カットソー等が動いており、例年より客単価が低くなった。	
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・前年並みに近い数字で推移しているが、利益が上がりにくくなっている。	
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	お客様の様子	・燃料油の仕入価格も低下基調にあるが、小売についてはガソリン、灯油ともに買控えの傾向が出ている。車に関する商品も交換サイクルを延ばそうとする傾向にある。		
一般レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・秋になり新しい商品を開発し、売り出したが、来客数には変化がない。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・ハワイ行きはチャーターの直行便が浸透しており、関東の大型テーマパークも少し予約が増えた。しかし鳥インフルエンザの影響により中国・香港に取消しがした。
		タクシー運転手	お客様の様子	・昼の動きが悪く、夜は忘年会が始まり、少しずつ良くなっている。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・今月はゴルフの試合や、プロ野球チームのキャンプなどにより、週末を中心に大変なにぎわいとなった。また市内のホテルも週末の宿泊状況がよい。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・観光施設の入場者数と売上が前年に比べて10%近く落ち込んでいる。
		設計事務所（代表取締役）	お客様の様子	・公共工事を中心とした仕事は、自治体の予算措置がされていないことで減少傾向にあり、収入が目減りしている。
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・原油高のため、例年に比べ買い控え傾向が続いている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・大型店が撤退して客の動きが少なくなった。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・気温も例年並みに下がり、秋冬物が売れる条件が整ったが、今一つ売行きが良くない。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・野菜の相場が下落したことや、競合の出店による単価下落のため、売上が悪い。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・以前に比べ、地元資本、中央資本、異業種などからの新規出店が活発になっており、パイの取り合いになっている。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・買上点数や客単価が著しく低下している。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・来客数は変わらないが客単価が大きく下がっている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・修学旅行や観光が減り、来客数が少ない。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・気温が平年並みになり、秋冬物が動き出している。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・まとまった購買が少なく、客単価が低く販売量も減少傾向にある。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・例年の忘年会の話が全くない。
		都市型ホテル（副支配人）	単価の動き	・団体客から個人客へと移行しているが、客単価の上昇はまだみられない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・年配の方の病院へ通うためのタクシー利用が減っている。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・顧客獲得の競争が激しく、企業体力の格差が如実に現れつつある。
		通信会社（業務担当）	お客様の様子	・携帯電話の買替えサイクルが長くなり、販促チラシを出しても来客数が伸びない。
競輪場（職員）	販売量の動き	・発売額の落ち方が顕著である。		
悪くなっている	○	○	○	
企業動向関連	良く	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上が前年比2けたの伸びを示している。
	やや良くなっている	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ビジネスホテルの物件が多く、来年の5月ぐらいまでの受注がある。
		窯業・土石製品製造業（取締役）	競争相手の様子	・製造業は、同業者および関連会社も含めて増収増益の状態でも売上自体も若干良くなっている。原油が高騰しているためコストは高くなっているが、リストラや低金利等に守られて良い方向には進んでいる。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体関連の金型において、短納期の受注を多く抱えており、受注の納期消化に苦慮している。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の製造業を営んでいる会社は、昨年比べて売上が上昇してきている。また、戸建の購入意欲、特に新築を建てる動きが活発である。
		新聞社（広告）	受注量や販売量	・新聞広告の発注が若干増えた。
その他サービス業[物品リース]（役員）	受注量や販売量の動き	・取引先からの引き合い案件も継続して増加傾向にあり、受注契約状況も好調に推移している。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・鳥インフルエンザの影響で消費に陰りが見えており、加工メーカーの引き合いも例年より弱い。地元スーパー、居酒屋関連は順調である。
		農林水産業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・販売価格は例年並みであり、出荷量は台風の影響によりやや少なめの状態である。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・業界で焼き物の原料である陶土の生産は毎月、前年比1割ダウンしており、焼き物の生産は減っている。同時に問屋の倒産があり、販売先が縮んでいる。
		金融業（得意先担当）	取引先の様子	・仕事の量が減ってきており、資金状況もあまり芳しくない。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・資金需要が低迷している。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・仕事量は変わっていないが、金額的にそんなに高い仕事ではない。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・売上高に関しては、安定して伸びているところが多い。もちろん、いいところと悪いところはあるが、以前のような厳しい状況ではなくなった。
	やや悪くなっている	繊維工業（営業担当）	競争相手の様子	・どこの工場も受注が増えておらず、冬物の追加も望めない。なおかつ、小ロットの商品が多い。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・なかなか受注が決定せず、事が前に進まない。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注単価が安くなった上に、値引きをされ採算面がさらに厳しくなった。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・新規見積の依頼案件がすっかり減ってきており、官公庁の入札もほとんどない。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・先月同様に、荷動きが非常に悪い。出荷、入荷ともに減少しており、在庫がたまらない。回転率は良いが、物がたまらないこの状況は非常に厳しい。
	悪くなっている	経営コンサルタント	取引先の様子	・飲料店の来客数の減少、客単価のダウンのため、業務用酒店の売上が低迷している。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人案件より求職者の方が少なくなっており、登録者の確保が困難になってきている。
		職業安定所（職員）	それ以外	・求職者の動向として、在職中の方が転職希望で来所するケースが増加し、以前より早く就職が決まる傾向になっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は引き続き堅調に推移しており、新規高卒求人も前年同月比30%増加している。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者の大幅な増加が続いているものの、増加幅は縮小している。
		民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・事務系、IT技術職、金融系職種、営業・販売職とも派遣需要が前年よりもおう盛である。製造系職種についても堅調に推移しており、職種によっては供給不足が懸念される。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・前年に比較して年末アルバイトの応募が多く、繁忙期の人手不足感が今年は少ない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・福岡では同業の大手進出により、市場は活性化されているが、地元企業への圧迫が強く感じられる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は前年比で伸びてきているものの、原油価格高騰により企業収益に影響が出ている。
	やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-	